

研究者としての経験を理科教育で活かす

杉尾むつ美 (有限会社メンデル工房サイエンス教室 吉祥寺校リーダー/
藤村女子中学・高等学校 非常勤講師)

仕事の内容とやりがい

土日は「サイエンス教室」で小学生に理科の実験を教え、平日は高校で生物学を教えています。一人でも多くの人に科学に興味を持ってもらいたい、楽しんでもらいたいと思い、仕事をしています。教育の効果は短期間ではわかりませんが、長期的に子供たちと接することで、彼らの成長を垣間見られるところにやりがいを感じています。教室で行った実験を自宅でもやってみたという話を聞いたり、「野菜のアクってなに?」といった日常生活で出会った科学の疑問を質問してもらったりすると、子供達のやる気に応えたいと頑張っている自分があります。

進路決定のきっかけ

小学生の時の夢は学校の先生、中学・高校の時の夢は研究者でしたが、大学に入ってから教育職と研究職のどちらに進むべきか決めかねていました。修士1年の時に就職活動と教育実習を行うことで、教育職に就くことに決めました。教育実習で「この生徒たちの成長を見守りたい」と強く思ったことがきっかけだったと思います。「将来の科学者を育てるためには、自分が科学者としての経験をしていないといけない」という考えと、「悔いが残らないように研究をしたい」という我がままから博士課程へ進学。そして現在の職に就いています。

仕事と家庭とのバランス

私は結婚しても仕事を続けたいと以前から考えていました。今年の3月に結婚することができましたが、夫は私が働くことに賛成してくれているため、現在も仕事を続けています。私の仕事は平日休み、夫の仕事は土日休みであるため、休日を二人でゆっくり過ごすことはできませんが、仕事を早く終わらせて、できるだけ早く帰宅することで家族との時間をとるようにしています。家事は二人で分担しているため、それほど負担になっていませんが、今後子育てををするようになっても夫の理解と協力のもと、仕事と育児を両立させたいと思っています。

進路選択に対してのメッセージ

私は大学を選択するとき、生物についての研究がしたいと漠然と考えていました。薬学部、農学部、理学部のどれも面白そうだからと思い、複数の学部を受験しました。しかし、今思うとどの学部に行ったかによって将来は大きく変わっていたように思います。学部や学科によってなりやすい職業は違いますし、同じ学科でもどの研究室に所属するかによって異なります。大学や研究室で何を学びたいかということも重要ですが、どんな職業に就きたいかを具体的に考えて、進路を選択することも大切ではないかと今では思っています。

<杉尾むつ美(すぎおむつみ)プロフィール>

1997年 静岡県立浜松北高等学校 卒業
 2002年 北海道大学理学部生物系 卒業
 2004年 北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻修士課程 修了
 2008年 北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻博士課程 単位取得退学
 有限会社メンデル工房サイエンス教室 入社
 藤村女子中学・高等学校 非常勤講師
 北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻博士課程 学位取得
 2009年 結婚

